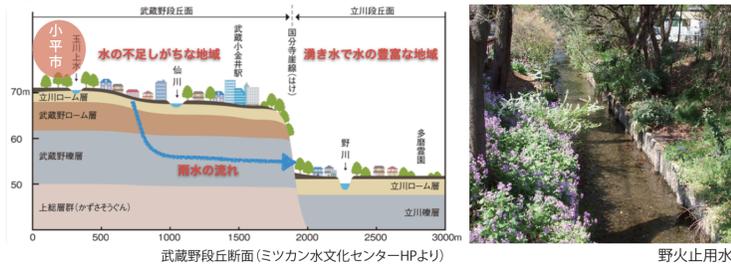


# 景観・外観デザインコンセプト

## ■歴史と地割

### 上水の完成以前：逃げ水の里

計画地は武蔵野段丘西側に位置しています。市の名前の由来となるほど平坦な地形で、用水路やかつての河川跡などにわずかに起伏がある程度です。玉川上水完成以前は、「逃げ水の里」と呼ばれ水の便に乏しく、人が生活するのに適さない場所でした。



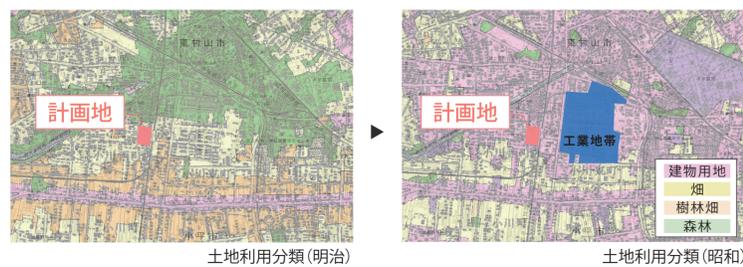
### 江戸時代 上水の開通：農地ならではの短冊形の地割

1654年に玉川上水が開通し、その分水として1655年に野火止用水が開通しました。小平市西部はこれらの上水から、さらに用水を引き、生活用水とすることで、江戸の近郊農村として開発されました。江戸時代の小平農地は香水として利用された小川分水の水を各農家に最短の分水路の長さで効率よく分配するために青梅街道を中心として、南北に分かれた短冊形の細長い地割を採用しました。



### 昭和時以降の変化：地割を継承した開発

昭和の初めには、学園地域の宅地分譲が進み、戦後、大工業の誘致と都心部のベッドタウンとして発展し、人口が急激に増加しました。一方で、江戸時代の南北に細長い短冊形の地割は継承され、畑や森林であった場所を東西方向に区画することで、さらに宅地や商店がつくられました。



## ■全体コンセプト

【上位計画の位置づけ】	【計画地周辺の特性】	【街並み等の分析】
<ul style="list-style-type: none"> <li>みどりのネットワーク（野火止用水、農地、屋敷森、幹線道路沿道のみどりなど）</li> <li>福祉のまち</li> <li>人の流れを生み出すまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉川上水の開通以降、新田開発により定住化が進行</li> <li>明治以降、鉄道が開通し、軍関連施設移転、戦後の工場進出など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新田開発による短冊形の地割りや自然、歴史の風景が残っている</li> <li>明治以降の市街化によって様々なまち並みが近接</li> </ul>

### 全体コンセプト

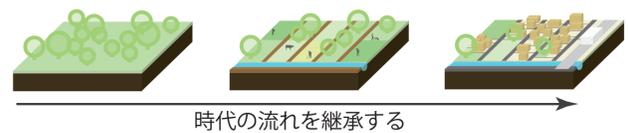
## 小川地域の玄関口としてふさわしい 歴史・風土・街並みと調和したやさしいまちの実現

<p>【受け継がれてきた地域性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の短冊形の地割</li> <li>“みち”の骨格を活かし、周辺への人の流れを継承</li> </ul>	<p>【受け継がれてきた地域性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野火止用水など豊かなみどりの空間が点在</li> <li>みどり豊かな小平らしい景観を形成</li> </ul>
<p>【賑わいを繋ぐ小川の顔づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちに根ざしたにぎわいの雰囲気</li> <li>小川の玄関口としてふさわしく、誰もが訪れやすくする</li> </ul>	<p>【安全に移動できる歩行空間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病院や福祉施設が多い福祉のまち</li> <li>誰もが安全に移動できる歩行空間を形成</li> </ul>

## ■現在のまちとその将来

### 受け継がれてきた地域性

工場や学校のような広い敷地をもつ建物以外は、江戸時代の南北への短冊形の地割を継承し、生活になくなくてはならない“みち”となりました。これらの“みち”の骨格を将来に亘っても活かし、周辺の商店街への人の流れを継承することがこの土地らしさを形成することにつながると考えます。



### 賑わいを繋ぐ小川の顔づくり

駅ができ、みち沿いに商店街ができたことで、小川のにぎわいは形成されました。一方で、駅前まで、車で寄り付くことができないという課題があります。まちに根ざしたにぎわいの雰囲気を継承しつつ、小川の玄関口としてふさわしく、誰もが訪れやすい施設とすることが重要です。



### みどりをつなぐ

計画地がある小平市西地域は、市内でも豊かなみどりを感じることができる空間が点在しています。一方で、小川駅西口周辺はみどりの乏しい空白地域となっています。並木の整備等により周辺のみどりと連続させることで、みどり豊かな小平らしい景観を形成することができると考えます。



### 安全に移動できる歩行空間

病院、福祉施設、学校などの公共施設が立地した福祉のまちという特徴があります。この特徴にふさわしい土地利用を維持し、小川駅前周辺の生活道路は、「誰もが安全に移動できる歩行空間」を形成していくことが重要です。



## ■施設建築物外観デザイン



今後の検討等により変更となる場合があります。